

Case 2

川崎市文化芸術振興計画



DATA

計画の名称

川崎市文化芸術振興計画

<https://www.city.kawasaki.jp/miryoku/category/73-2-4-1-2-0-0-0-0-0.html>

計画期間

第3期計画:
令和6～令和15年度(10か年)

担当課

市民文化局市民文化振興室

計画の位置づけ

川崎市文化芸術振興条例に基づく「川崎市総合計画」を上位計画とする個別計画

計画の構成

目指すまちの姿に「すべての市民が文化芸術に触れ、親しめるまち」を掲げ、3つの基本目標及びそれぞれの施策で構成。さらに、基本目標及び施策すべてに係る4つの「横断的な戦略」を設け、その一つに「かわさきパラムーブメント推進ビジョンのレガシーを形成する」を据えている。

第3期計画 策定のスケジュール

	学識経験者等	庁内関係		議会関係	市民意見関係
	文化芸術振興会議	文化芸術振興庁内推進委員会	政策・調整会議等		
令和5年5月	策定の方向性の意見聴取				
7月		策定の方向性		文教委員会計画の策定説明	文化芸術団体へのアンケート、文化芸術団体等へヒアリング
8月	素案作成の意見聴取				
9月	素案への意見聴取				市民アンケート
10月				教育委員会計画案の意見聴取	
11月		計画案	計画案及びパブリックコメント実施(企画調整連絡会議、政策・調整会議)	計画案及びパブリックコメント実施の説明	パブリックコメント
令和6年2月	報告	計画案(パブリックコメント反映)	パブリックコメント結果(企画調整連絡会議、政策・調整会議)		
				パブリックコメント結果報告	

1 経緯等

文化芸術振興計画に、
障害者による文化芸術活動の推進について
盛り込んだ経緯を教えてください。



- 第2期川崎市文化芸術振興計画から、障害者の文化芸術活動推進について記載するようになりました¹。庁内や文化芸術振興会議委員²から、第1期計画の課題として「やはり高齢者や障害者、子供連れの方等に向けた施策が必要だ」という意見が上がったことを受けての流れでした。



他の計画との関係についても教えてください。

- 障害者関係の施策のうち文化芸術だけで考えるなら、文化芸術を主とする計画の中に入れる方がわかりやすいと考えています。ただし、計画間の連携や整合性から、関連する計画には、同じような項目を記載しています。

¹ 第2期計画の「2. 基本目標と施策展開」の「基本目標3 市民が文化芸術に触れる環境・活動できる環境の整備」に「バリアフリープログラムの推進」や「様々な方が文化芸術活動に参加する機会の提供」を記載。

文化芸術の振興に関する重要事項について、調査審議するための委員会。市民及び学識経験者 10 人以内で構成（任期：3年間）

2 策定にあたっての調整等



文化芸術振興会議との関係について教えてください。

- 第1期計画策定では、文化芸術振興会議から計画についての提言をいただきました。第2期計画の改訂版の時は、文化芸術振興会議で素案を見せて意見を求め、計画に反映いたしました。

- 提言という形ではなく、自由に意見をいただくことで、それぞれの考えや自身の活動された中での経験を活かした有意義な意見を多くいただきました。

- 文化芸術振興会議で委員から「施設のバリアフリー化には限界があるため、ハードではなくソフト面の取組として心のバリアフリーの推進がよい」という意見があり、計画に反映いたしました。



庁内での調整はどのように進められたのでしょうか。

- 文化芸術振興庁内推進委員会を設けて、市の障害者の文化芸術関係の取組を始め、文化芸術振興計画に関する取組を共有、意見交換を行って、計画の策定にあたって、市としての政策決定を行いました。なお、庁内推進委員については、庁内の関係する企画担当部署を委員とし、各部署との調整や意見集約等を行います。

- 担当課においては、障害者の文化芸術活動推進に取組、「パラアート推進事業(パラアートかわさき)」³などを行っており、障害関連の計画にも記載しています。また、生涯学習や教育の部署においても、障害者の文化芸術関係の取組を行っています。

- 文化芸術振興庁内推進委員会は毎年1回開催し、振興計画の進捗状況を管理することになっています。第3期計画では、目指すまちの姿を達成するため、横断的戦略の取組について、事例やノウハウなどを集約し、各部署にフィードバックしていきたいと考えています。

具体的には、イベントを開催する際には、ベビーカー専用の座席を用意する、ボランティアの方に障害者への案内をレクチャーするなどの情報を共有し、それぞれの取組に取り入れることで、徐々に誰もが鑑賞できる環境が整っていけばと考えています。

3 計画の基本的な考え方

記載する内容はどのように検討されてきたのでしょうか。

- 第2期計画では、主に既存の事業や、担当部署で取り組めることを記載し、映像作品に字幕をつける、ボランティア育成の中にバリアフリー関連項目を取り入れるなどのことから始めました。

- 第2期計画の改訂では、国の計画や「かわさきパラムーブメント」推進ビジョ

3 川崎市では、「障害のあるなしに関わらず親しめる文化芸術活動（音楽、美術、写真、演劇、舞踊、メディア芸術、茶道・華道・書道などの文化、伝統芸術など）」を「パラアート」としています。

ン⁴の策定、また「パラアート推進事業(パラアートかわさき)」の取組があり、それらを踏まえて更なる障害者による文化芸術活動の推進に取り組みました。

検討中の第3期計画のポイントを教えてください。

- 第3期で本市の文化芸術振興の重点的な取組として考えているのは、「アート・フォー・オール」という誰もが文化芸術に親しむ環境を作ることや、市民ミュージアムなどの施策となります。市民ミュージアムは令和元年の東日本台風での被災などの状況を受け、新たなミュージアムを整備して拠点施設とするとともに、まちなかミュージアムなどによって文化芸術に触れあう機会を市内全域に展開していきます。

- 「誰もが文化芸術に触れる」は、他市町村でもよく計画などに記載されていると思いますが、それを実現するには、さまざまな事業を展開するだけでなく、各事業で障害者の方や子供連れの方が参加しやすい環境をつくることが大切であると考えています。

- 第3期計画においては、各事業の目的を達成するだけでなく、誰もが文化芸術に気軽に触れ、親しむことができ、様々な出会いや交流を促進させ、「本計画の目指すまちの姿」を形成するため、ソフト面におけるバリアフリー化や、文化芸術を担う方たちの交流などを推進するといった「横断的な戦略」を定めています。

また、庁内推進委員会において、各取組の結果や点検・評価を通じて抽出

4 東京2020大会を契機に、誰もが暮らしやすいまちづくりを目指す「かわさきパラムーブメント第1期推進ビジョン」(平成28年度、29年度)を策定。第2期(平成28年度～令和3年度)へと引き継がれ、令和4年度からは共生社会実現に向けて「かわさきパラムーブメント推進ビジョン」となっている。

<https://www.city.kawasaki.jp/2020olypara/cmsfiles/contents/0000141/141417/vhonpen.pdf>

された課題を検証し、改善策へとつなげる際に、「横断的な戦略」の取組についても情報収集、共有を図って、各施策に取り入れるよう進めていくことが、第3期計画を進めるにあたって必要であると考えています。

4 策定に当たってのポイント等

第3期計画策定の際、

参考にされた事例や資料はありましたか。

- 第3期計画策定では、本市の実情に即しつつ、国の文化芸術推進基本計画を参酌するため、庁内検討や文化芸術振興会議で要点がまとめられた概要版を資料として活用いたしました。また、障害者による文化芸術活動の推進に関する基本計画も同様に、本計画の策定資料としました。

今後、計画策定に取り組む自治体へ

アドバイスがあればお願いします。

- 第2期計画改定の時は、東京オリンピック・パラリンピックとの関連でパラムーブメントが進んでいった背景もあり、本計画に更なる障害者の文化芸術活動の推進を定めることができました。同様に他の市町村でも既に様々な取組が行われていると思いますので、それらを文化芸術振興計画に定めることで、当市のように文化芸術推進計画のなかに障害者の文化芸術活動の推進を定めることができるのではないかと思います。

策定作業を行う中での気づきについて、教えてください。

- 計画の策定には時間を要することから、計画に新たに障害関係の取組を反映させるためには、計画策定年度前に調査、調整などの準備をすることが必要かと思います。

- 最初に関係部署や学識経験者、文化芸術団体、市民に意見を聞くことで、計画に反映させる内容が見えてくると思います。また、それらを反映させるためには、早い段階で意見を聞いておく必要があります。学識経験者の意見は専門的で貴重なものであり、文化芸術団体や市民の意見からは活動している方の実情がわかります。そのため、計画策定の方向性について、学識経験者から多様な意見をいただいたことが非常に良かったと思っています。

- 今回の計画策定にあたっては、文化芸術振興会議で「現場の意見を多く聞いた方がよい」という意見があったことから、文化芸術団体へのアンケートだけではなく、個別ヒアリングを行うとともに、川崎市障害福祉施設事業協会や支援学校などへの個別ヒアリングを行いました。

個別ヒアリングを実施して、現場の方の声を聞くことは重要であると感じるとともに、これを機会に様々な団体・学校との繋がりもできたことから、今後いろいろな取組で連携していくことができるようになったと感じています。

